

【ポスター発表】

**専門職連携教育における学生の経験と学び
ーテキストマイニングによる可視化の試みー**

○ 国際医療福祉大学 山口 佳子 (会員番号 008043)

キーワード：専門職連携 IPE テキストマイニング

1. 研究目的

A 大学で実施している専門職連携教育 (Inter professional Education: IPE) の最終課程である関連職種連携実習において、学生が何を経験し何を感じたのかという主観的事象を概念化して分析することで、専門職連携教育の経験の可視化を試みる。実習経験の様相を把握することをもって、今後の教育課題と教育効果の評価方法を検討する資料とする。また、社会福祉士養成における IPE の意義について考察する。

ここでは、実習施設のうち保健福祉施設に着目し、施設種別の相違と学びの相違との関連について検討する。また、学生の目指す職種間における感受の相違について検討する。

なお、本研究は、本学臨床教育委員会が行っている研究の一部である。

2. 研究の視点および方法

分析対象は、2013 年に連携実習を行った 4・5 年生、合計 164 名である。医療福祉の養成課程にある 9 職種 (薬剤師、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、診療放射線技師、視能訓練士、社会福祉士、診療情報管理士) の養成課程にある学生が 1 名ずつ参加してチームを編成し、15 の実習病院・施設において 1 週間の実習を行った。チームごとに 1 人の患者・利用者をケースとして受け持ち、サービス計画を作成した。実習終了後に学生各自が作成した実習レポートを所与のテキストとして、統計的テキスト解析 (テキストマイニング) を行った。解析にはテキストマイニング・ソフト KH-coder (Ver. 2. beta. 31c) を利用した。

分析 1 では、保健福祉施設 7 か所での実習について、施設ごとに分析を行い、比較した。

分析 2 では、9 職種について職種ごとに 15 名分の分析を行い、比較した。

3. 倫理的配慮

本研究は、国際医療福祉大学研究倫理審査委員会の承認を得て行った。研究対象者となる学生に対しては、研究の目的並びに方法、倫理上の配慮について書面及び口頭で説明し、同意を得た。

4. 研究結果

実習レポートの内容を基に統計的テキスト解析を行なった結果、合計 129,974 件の単語

が抽出された。出現頻度が高いのは、職種(2,522回)、患者(939回)、考える(774回)、情報(699回)、チーム(670回)の順だった。頻出単語と、他と多くつながっている単語に着目して共起ネットワーク分析を行った。頻出単語のクラスタリングと対応分析を組み合わせた結果、実習施設と職種ごとに内容に相違が見られた。

分析1の施設間比較では、共起ネットワーク分析から、施設種別による相違点と共通点が見られた。共通するのは、「関連」「連携」「チーム」といった連携に関する単語であった。施設の特徴の現れとして、障害児を除く入所施設では「生活」が多く、通所施設では「在宅」が多く共起されている。相違点としては、介護老人保健施設の「看護」「理学」「作業」「言語」「療法」「訓練」「在宅復帰」、介護老人福祉施設の「快適」「笑顔」、医療型障害児入所施設の「理学」「作業」「療法」の出現が特徴的である。さらに、介護老人福祉施設の1か所では、「生活」と「病院」「施設」「異なる」に共起があるが、もう1か所ではみられない。通所施設（通所介護・通所リハビリテーション）の1か所では「本人」「希望」「悩む」の共起、「訪問」「リハ」「病院」の共起があるが、もう1か所ではみられない。

分析2の職種間比較では、共起ネットワーク分析から、職種間で相違が認められた。

社会福祉士を目指す学生では、「生活」「家族」の共起、「視点」「違い」の共起が多く見られた。理学療法士を目指す学生の実習レポートには、「情報」「共有」「重要」の共起関係があり、診療情報管理士を目指す学生では、「情報」「理解」の共起関係が認められる。看護師を目指す学生は、「情報」という言葉の出現回数が少なく、共起ネットワークには表示されていない。診療情報管理士を目指す学生は、「カルテ」「報酬」「経営」「サポート」といった言葉が特徴的であった。看護師を目指す学生は、「教員」「指導」「助言」「頂く」「前提」の共起関係があるが、他の職種では共起ネットワークに現れていない。

5. 考 察

実習レポートから抽出された単語の関連性を辿ると、学生たちの実習経験の主なものとして、自職種としての知識不足、専門用語の難しさ、現場のダイナミックさと情報量の多さ、他職種への関心、チーム形成の難しさ、等が想定できる。

施設間比較において、支援内容や施設の目的に関する単語に関しては、施設種別の相違が現れている。専門職連携に関する単語に関しては共通している。このことから、施設の目的や支援内容を十分理解した上で利用者を捉え計画作成を行っていること、それらを通して職種間の連携を学んでいることが分かる。

職種間比較においては、職種間により相違が認められ、それぞれの職種の特徴や立ち位置をそこから読み取ることが可能である。社会福祉士は、対象者の生活や家族に関心を持ち、専門性が発揮できていることが分かる。また、実習の中で多職種との視点の違いを認識しており、これらの気付きは相談援助実習では得られないものである。